



組織を見つめなおしクラブの基盤整備を ～ DLPの理解とクラブにビジョンを！そして戦略計画を ～

国際ロータリー 第 2790 地区
2021 - 22 年度 ガバナー 梶原 等
(千葉 RC)

ニューノーマルな時代へ

依然猛威を振るう新型コロナウイルスですが、今年度もコロナと共に進まなければならない様です。ワクチンの接種は始まりましたが、国民全体、あるいは世界中が終息するまでにはもう少し時間がかかりそうです。様々な活動に制限がかかっておりますが、今やオンライン、ハイブリッドミーティングは当たり前の時代です。オンラインツールを積極的に採用しやがてコロナ明けが訪れる頃には“ニューノーマル”な時代に。私達ロータリーも時代の先取りを目指しましょう。

開かれた扉の向こうに走り出しましょう。奉仕の理念の実践により世界中の人々の人生を豊かにしていきましょう。

新型コロナウイルスが蔓延して1年半が過ぎ私達の生活は全てが変わりました。

それでもロータリークラブは可能な限りの活動を続けて参りました。昨年のRIのテーマ「ロータリーは機会の扉を開く」と地区スローガン「奉仕の理念の実践」に向け新たな可能性を見つけ出す準備と実践を進めて参りました。今年度は「開かれた扉」の向こうに駆け出し、「みんなの人生を豊かにするために」奉仕の理念の実践を推し進めましょう。

奉仕の理念とは「他人の事を思いやり他人の助けになること」です。

そしてロータリーの奉仕とは「人のために役立つこと」です。

「みんなの人生を豊かに」という事は、奉仕の理念の実践に繋がります。

夫々のロータリーの中でアクションを起こしましょう。

RI会長テーマについて

今年度RI会長 シェカール・メータ氏(インド:カルカッタマハナガルRC)は本年2月の国際協議会で

SERVE TO CHANGE LIVES

“奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために”

をテーマに掲げられました。

シェカール・メータ会長は“超我の奉仕”をご自身のロータリーの中心に置き以下のように語っております。

奉仕とは「自分よりもほかの人のことを先に考えることです。」と仰っております。いわゆるservice(サービス)、奉仕の心です。そして奉仕についてはこのようにも仰っています。「奉仕とは私たちがこの地球上で生活をする上でこの土地を借りる賃貸料である」と。そのような視点で自分に与えられた環境に対し感謝の心を示されています。更には奉仕する事は周りを幸せにするだけでなく自分自身も奉仕することによって豊かになると仰っています。この様な姿勢を伺いまして真心をもって人

に接するという私達ロータリアンが根底に置くべく職業奉仕の精神をもっていらっしゃる事が解ります。さあ行動しましょう、みんなの人生を豊かにするために。

■ロータリーのビジョン声明

「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

2017年6月に、ロータリー理事会と財団管理委員会にて承認されたビジョンです。

多様化する現在において、ロータリーのさらなる成長を促すために採択されました。

変わらないものはロータリーの中核的価値観、「親睦・高潔性・多様性・奉仕・リーダーシップ」です。

変えてはならない価値観と変えなければならない行動計画、ロータリーの新しいビジョンによって、私たちは過去を称えながら未来へ進んでいかなければなりません。

■ロータリーの戦略的優先事項と目的

2018年6月、RI理事会とロータリー財団管理委員会は新しい戦略的優先事項を承認、今後5年間の戦略的方向性を示しました。(2019年7月より導入)

ロータリーの戦略事項と目的についてお話をさせて頂きます。

1. “より大きなインパクトをもたらす”

ポリオの根絶に向けた寄付と支援、そのPRこそロータリーとしてのインパクトを与えることになります。そのためには各地域での奉仕活動を行う際にポリオ根絶のPRを進んで行ってください。

又、その奉仕活動やプログラムが地域のニーズに合っているのか、成果が見える形になっていることが大切であると思います。成果には具体的な数値化を図りましょう。

2. “参加者の基盤を広げる”

ロータリアンと地域社会の人々が一体となって持続可能な社会を作り上げて行くことが必要です。そのためにはロータリアンが奉仕活動などを通じて親睦を深めその先に地域の人々との連携やロータリーのPRを推進していくことが基盤を広げることにつながるでしょう。ロータリーをオープンにしていきたいと思います。

3. “参加者の積極的な関りを促す”

ロータリアンが自ら参加できる仕組みづくりが何より優先課題です。

自分たちの中でロータリーを展開する意識があれ

ば積極的な参加者は増えるはずです。

その先には、職業のつながりや地域リーダーを創り上げる研修なども展開されていくことでしょう。

4. “適応力を高める”

世の中の多様なニーズに応えるべく活動の在り方や手段方法を検討しましょう。

同じ地区内でもエリアによってはニーズが異なり、参加者の基盤も違います。

そのニーズに応えるためには多少の困難にも立ち向かう勇気と団結力が必要でしょう。

地区内外のロータリーのネットワークを通じてチャレンジしていきましょう。

地区運営方針

地区スローガン 「Love Other Spirit」
～繋ごう次世代へ 夢ある未来に向けて～

他人の為に何が出来るか。世界で良いことをしよう。それは“愛他精神で”行動をすること。そして次の世代に健全な地球環境や安心安全な社会を繋いでいかなければなりません。その先に明るい夢がある社会を示していかなければなりません。国際社会、地域社会を良くするには私達ロータリアンがとるべき行動は沢山あります。そして人々の暮らしは私達の行動によって大きく変えることが出来るという事です。クラブを構成するロータリアン一人一人が意識を高めクラブの行動規範を見つめ直し、まずは身近な地域から新しい変化を起こしていくことが大切であると考えます。その変化はやがて時代を超え確実に未来に向けて国際社会を変える大きな原動力になります。私達ロータリアンにはその使命が課せられています。

1. 地区組織 (DLPの再構築)

2002年に導入が義務付けられた地区リーダーシップ・プラン(DLP)について2790地区のモデルを再構築したいと考えています。ロータリー章典に示されている地区リーダーシップ・プランには「ガバナー補佐」、「研修リーダー」、「地区委員長」、「クラブリーダー」の明確な責務と任務等が明記されています。これを21-22年度明文化します。クラブ、会員の皆様にご理解を賜りたいと思います。

特にガバナー補佐(アシスタントガバナー)の責務と立場をしっかりと位置づける事が何よりの優先事項です。そしてガバナー補佐の効果的な選出方法においても議論を重ねてまいりたいと思います。

既にRIはロータリーのビジョン声明を打ち出しており、ロータリーの中核的価値観を根底に職業奉仕の精神(Service)を意識しながらロータリーのイメージの向上と地域社会を取り込んだ多くの参加者を求める事により大きなインパクトをもたらすための戦略的優先事項を掲げております。それに見合う地区組織を編成する必要性を感じております。

各種委員会は、職業奉仕委員会を奉仕プロジェクトより独立、ロータリー情報委員会も管理運営部門より独立させ、奉仕の理念を構築する部門と奉仕の実践をする部門を明確に分けることにより各種プロジェクトを進めやすい組織に致します。奉仕の実践部門は管理運営統括、奉仕プロジェクト統括、青少年プロジェクト統括、ロータリー財団統括、米山記念奨学会とします。

2. 地区グループ再編会議

2020-21年度より引き継いだグループ再編課題について昨年度からの資料を基に各クラブとのヒアリング、方向性を示し再編会議は定期的かつ具体的に進めて参ります。

この委員会の役割は昨年度から引き継いだ再編案に関しての地域調査及び更なる効果的なグループ割が出来る様検討を進めます。

年度内に具体的な案を再考し、それを地区内の各クラブへ周知し具体的なアクションに結びつける準備を行い、2022-23年度に地区内への周知、広域的なクラブ間の交流実施を経て2023-24年度からの再編実施に向けた活動をするものとします。

3. 国際ロータリー“未来形成”(SRF)について

国際ロータリーは100年以上続いた地区制度の見直しを発表しております。

このSRF未来形成が具体的にどの様に進むのか、詳細は不明な部分もあります。しかし通達されていることは組織の運営方法が大きく変わるかもしれないという事です。

この変化に対応すべく、今は地区組織を盤石なものとしどの様な体制にも対応できるクラブづくりが必須で各クラブの強化を最重点項目として取り組むことは緊急の課題です。

このSRFについても皆さんと議論を重ねて参りたいと思います。

4. ガバナー補佐 (Assistant governor)

ガバナー補佐の役割とは何か。

各クラブと地区にとって重要なポジションの役職です。クラブの活力ある運営と必要な支援や助言を担います。当然、クラブへの訪問は定期的に最低でも四半期ごとに1回以上の訪問が推奨されています。クラブ側から地区やRIに向けての質問や要望、逆にRIや地区からの依頼事項などを敏速に且つ効果的な橋渡し役を果たさなければなりません。

又最近はオンラインツールも積極的に活用し地区委員会や各クラブとの連携も率先してガバナー補佐がそのリーダーシップを発揮しクラブにとって頼りがいのある存在にあります。

詳細の役割はMy Rotaryより確認頂き、アシスタントガバナーとクラブがもっと連携を図って頂きたいと思います。

5. ロータリー情報研究会(研修会)とIM(インターシティーミーティング)について

当地区で長年続いている情報研究会・IMについては現在ガバナー補佐の主要行事の様になっておりますがその開催方法や内容には各グループによって様々です。

せっかく開催するのであれば、地区側から最新のロータリー情報の提供を行い会員基盤向上セミナーの様な研修を開催して頂きたいと考えます。

現在イメージしているのは、それぞれのエリア(最低でも2つ以上のグループが一緒になる様に)においてガバナー補佐主催によるセミナーを開催し、前期には地区ロータリー情報研究会としてロータリーの職業奉仕のあり方、直近のロータリー情報や地区リーダーシップ・プラン(DLP)とクラブリーダーシッププラン(CLP)の周知と活用法についての研修を開催。後期には地区会員基盤向上セミナーと称して、奉仕PJ事例、財団の仕組み、会員増強・会員基盤の事など研修を進め

て参りたいと考えます。

又、その研修内容については地区職業奉仕委員会、ロータリー情報委員会をはじめ地区委員会がテーマや内容の具体的なサポートを地区研修委員会と連携しながら行います。

6. ロータリー奉仕デーの実施

各クラブでロータリー奉仕デーの開催をお願いします。

“ロータリー奉仕デー”はロータリーの活動を世界中に示し、ロータリアン一人一人が「ロータリーのブランド大使」になってこれを実行してほしいという事です。

2つ以上のクラブ、あるいはRAC、IACも巻き込み、更にはロータリアン以外の参加者、他の市民団体と協力しその参加者構成が25%以上になるようにしてください。ロータリーの7つ重点分野に沿った奉仕活動を展開してください。地域社会・世界中の人々にロータリーの活動を広く知って頂ける様に広報活動を展開しながら奉仕事業を開催してください。

7. 女子のエンパワメントに向けて

“女子のエンパワメント”(EMPOWERING GIRLS)という事を強く前に押し出しています。そしてロータリーの中核的価値観は多様性であり、ロータリーのDEI(多様性・公平さ・開放性)に対する信念を表した公式声明もあります。

今でこそ、日本では教育を受けられない女子は居ませんが世界中を見渡せば女子の置かれている環境(差別や不利益、機会の欠如)は決して良いとは言えません。教育すら受けられない環境下の女子は沢山います。女子の持っているポテンシャルを社会に生かせるようにする。教育・健康・そして経済的発展を女子がもたらすことの出来るステージをロータリーから創り出していくと提言されています。

女子の持っているポテンシャルを更に引き出すために女性クラブ会員を増やすとか、地域社会の女子に焦点を当てたプログラムを展開してください。女性の持っている力がもっと地域社会や国際社会に向けられるような企画をお願いします。

8. 会員増強に取り組む

シェカール・メータ会長は国際ロータリーの会員を120万人から130万人に増やそうとこのプロジェクトを立ち上げました。Each One, Bring Oneです。一人が一人を会員に迎え入れるという事です。

まずは、各クラブの現状を確認し、5年後、10年後を見越し会員基盤の向上と会員構成の平準化、衛星クラブ等も視野にいった会員基盤向上・拡大を計画してください。具体的な数値目標もお持ちいただきたいと思います。

9. 結びに

何故いま組織改革なのか。DLP、あるいは戦略計画、そしてCLPなのか。

皆さん、各クラブの現状に満足していますか。もし満足しているのであれば、クラブの健康状態は如何でしょうか。現状に満足していても健康であるとは言えません。

流れが速いこの時代5年前は昔の事です。5年先は創造もつかない近い未来です。

世の中の変化に対応することが出来る組織は社会に必要とされていきます。逆に変化する事に躊躇していると社会から取り残されることになります。

皆さんのロータリークラブは地域社会にとって掛け替えのない大切な存在です。

どのクラブも時代の先取りをしながら私達の後進に明るい未来を導き出しましょう。

それは私たち自身が輝く事でもあり、クラブが未来に向けてより前進していくことです。

“船は港に居れば安全です。

船の目的は港に居る事ではありません。航海してこそ船の目的が成就されるのです。

変革者である我々は冒険でありメンテナンスではありません。”

“私達は奉仕し、みんなの人生を豊かにするためのパワーと魔法を持っています”

共に歩みましょう。みんなの人生を豊かにするために。

略 歴

氏 名 梶原 等 (かじはら ひとし)
生 年 月 日 1960年(昭和35年)9月2日生
所属クラブ 千葉ロータリークラブ
職 業 分 類 建築設計 (株式会社環境設備計画)

【ロータリー歴】

2003年 千葉ロータリークラブ入会
2006-07年度 RYLA委員会 実行委員
2014-15年度 フェローシップ委員会 実行委員
2015-16年度 地区幹事長

2018-19年度 ガバナーノミニー・デジグネート
クラブ会長・地区副幹事長
2019-20年度 ガバナーノミニー
ロータリー財団委員会 統括副委員長
2020-21年度 ガバナーエレクト

【認 証】

メジャードナー
ベネファクター
ポール・ハリス・ソサエティー
米山功労者